# 介護従事者と薬局薬剤師の連携による残薬及び重複処方実態調査

五十嵐 中 氏

東京大学大学院薬学系研究科・医薬政策学
特任助教

## 1.研究の背景

処方内容通りに正しく服用されない薬は、「効かない」という健康面への影響のみならず、コスト面でも「無駄遣い」となる。そのため薬剤師が積極的に患者に働きかけて医薬品の使い方を指導することが推奨され、英国や豪州などでは薬剤師の職務として報酬化もなされている。日本でも申請者らのグループが、処方薬だけでなくOTCやサプリメント・健康食品も含めて「服用薬」と定義し、服用薬を薬局に持参してもらってその飲み合わせをチェックし、適正使用を図る「ブラウンバッグ運動」を各地で実施しているが、医薬品の無駄遣いに焦点をあてた事例研究や定量的評価は限られている。さらに、正しく薬を使うことが他の職種に与えるメリットの定量的評価については、ほとんど研究が存在しない。

「ブラウンバッグ運動」のウェブサイト

## 2.研究の目的

茨城県薬剤師会土浦支部・石岡支部と共同で、患者への直接の聞き取りによる残薬や重複処方の実態調査を行う。さらに、ケアマネージャ組織と連携したフォローアップ調査の実施により、薬剤費の削減効果および他職種、とくに介護負担の軽減度合いについても、定量的評価を行う。

**【研究の計画】**

地域薬局およびその地域の団体等の協力を得て行う医薬品使用実態研究であり、横断研究である。記述統計により残薬・重複薬の実態を把握する。

**<残薬調査の実施過程>**

1.1回の調査実施期間は2ヶ月を目処とし、合計200名を目標とする。
2.通常の服薬指導を実施する際に、薬局にて任意に高齢者を中心として患者に調査への参加を呼びかける。
3.あらかじめ定めた「残薬・重複処方記録票」を用いて、薬剤師が患者にその時点で使用中あるいは自宅に残っている医薬品の聞き取り調査を行う。自宅で調査を行う場合には、各薬剤師の責任において患者宅を訪問する。
4.記録は各薬局で保管する。患者毎に任意の番号を付与し、マスキングをした記録のコピーを茨城県薬剤師会土浦支部ならびに石岡支部に送付する。
5.事務局において、マスキングが正しく行われていることを確認し、研究実施者へ記録票を送付する。

**<前後比較の実施と、介護職への負担の調査>**

1.「残薬調査の実施過程」で述べた調査は、1人の参加者について3ヶ月程度の間隔で2度実施し、薬剤師の指導による残薬の変化を定量的に捕捉する。データの取得方法は、前述の通りである。
2.残薬調査とあわせ、介護サービスあるいは介護予防サービスを受給中の参加者については、本人並びに介護従事者の同意を得た(必要な場合は、代諾者から同意を得る)上で、介護従事者の負担に関する調査を実施し、同様に前後比較を行う。

**<データの解析>**

残薬調査および介護従事者の負担調査ともに、予め匿名化されたデータを申請者らの施設において記述統計的解析を実施する。

## 3.期待される成果

本研究により、適切に服用されなかった薬の経済的な損失を、定量的に明らかにできる。あわせて、薬剤師による介入の効果を、「残薬の減少」として定量的に捉えられるのみならず、他職種、とくに介護従事者の負担がどう変化するかを捕捉することで、薬剤師の業務が他職種の負担軽減にどの程度貢献できるかを明らかにできる。

薬剤師内だけでなく、他職種への波及効果を含めた定量評価を実施することは、地域医療の中での薬剤師の役割を再確認し、なおかつその位置づけを明確にできる点で、非常に意義深いものと考える。

**<現在までの活動計画>**

研究の遂行に関して、研究代表者ならびに一部の協働者が所属する機関(医療経済評価総合研究所ならびに明治薬科大学)に対し、倫理審査を申請済みである。

あわせて、協働者である茨城県薬剤師会土浦支部・石岡支部の一部の薬局において、同意を得た上でパイロット調査(29人)を実施した。このときに使用した残薬調査票を、別に添付する。このデータについても、解析の上で実例紹介を投稿または学会発表として準備中である。

「ブラウンバッグ運動」のポスターとチラシ

**<これまでの活動実績>**

論文

Akazawa M, Kusama M, Nomura K, Igarashi A. Drug Utilization Reviews by Community Pharmacists in Japan: Identification of Potential Safety Concerns through the Brown Bag Program. Value in Health Reginal Issue 2012 (1); 98-104.

報告書

日本薬剤師会報告書 平成22年6月「ブラウンバッグ運動-薬局薬剤師による服用薬の包括的な併用実態調査-」
(http://www.nichiyaku.or.jp/contents/kaiken/pdf/100617_2.pdf)

学会発表

医療薬学フォーラム2010(広島) 平成22年7月「ブラウンバッグでお薬チェック -広島での取り組みを中心に-」
(http://plaza.umin.ac.jp/~brownbag/html/result_report/Clinical%20Pharmacy_forum_2010.pdf)

ISPOR 4th Asia-Pacific Conference(タイ) 平成22年9月「MEDICATION CHECK-UPS BY COMMUNITY PHARMACISTS - EXPERIENCE OF “BROWN-BAG” REVIEWS IN JAPAN」
(http://plaza.umin.ac.jp/~brownbag/html/result_report/ISPOR2010poster.pdf)

新聞・雑誌掲載

調剤と情報 平成22年2月「広島発 ブラウンバッグ運動の試み」
(http://plaza.umin.ac.jp/~brownbag/html/result_report/chouzai_to_jyouhou_201002.pdf)

月刊薬事 平成22年6月「米国における持参薬管理 -ブラウンバッグ運動と日本への導入-」
(http://plaza.umin.ac.jp/~brownbag/html/result_report/gekkan_yakuji_h22_06.pdf)

調剤と情報 平成22年8月「『ブラウンバッグ運動』調査結果からみえる薬局薬剤師の可能性」
(http://plaza.umin.ac.jp/~brownbag/html/result_report/chouzai_to_jyouhou_201008.pdf)

大日本住友製薬情報誌「Excellent Pharmacy」平成22年11月
「ブラウンバッグ運動から薬局の役割を考える」
(http://plaza.umin.ac.jp/~brownbag/html/result_report/01-04_EP04_2.pdf)